事業所名

シェルフかごはら第2教室

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024年

12月

12日

法人（事業所）理念	子どもたちがかけがえのない唯一無二の存在として大切にされ、その子らしく成長・発達していけることを目的とし、コンプライアンスを遵守し療育の質の向上をめざす。支援者同士が考えを出し合い、対話することを大切にする。チームとして自分たちの療育を振り返り、記録をし、療育環境を整え、声かけの方向を考える創造的な療育をする。					
支援方針	子どもにとって遊びは発達に不可欠であり、情緒の安定ももたらすことを踏まえ、自発的に遊べることを重視する。自分で自由に選択できる環境において脳がもっとも学習するようにできていること、一番大切な情緒の部分が生き生きとすることを考慮し、子どもが望む遊びを思う存分させることを大切にする。発達の特徴を見極め、適切にサポートし、次のステージにいった時に、より良い人生を生きられるために成長できる支援を行う。					
営業時間	10時	0分	18時	0分	送迎実施の有無	なし
支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	ブランコやトランポリン、バランスボール、ゆさぶり遊びなど感覚刺激を活用する。ハイハイ、高這いを遊びの中に取り入れ、全身の筋力の向上を図っていく。				
	運動・感覚	身体を動かす遊びを繰り返す中で必要な刺激を与え、五感（視覚、嗅覚、聴覚、味覚、触覚）を育てる。さらに「バランス感覚（前庭覚）」「筋肉や関節の運動に関する感覚（固有覚）」などの感覚機能も育てる。からだのバランスや三半規管を鍛えることを遊びの中に取り入れ感覚統合を図っていく。				
	認知・行動	スケジュールを見てわかるようにし、見通しが立てられるようにする。課題は簡単に継続して行えるように設定し、自信をつけて新しいチャレンジへの意欲を高める。成功体験を多く積めるように意図的に機会を作る。				
	言語コミュニケーション	遊びながら言語（単語、擬音語等）を多く使って、言葉の溢れた環境に触れるようにする。				
	人間関係社会性	支援者と継続的に関わることで、周囲の人との信頼関係・安心感を得る。				
家族支援	お迎え時にコミュニケーションを取りながら、日々の状況を共有していきます。また、必要に応じて保護者面談を行います。家庭でできる具体的な方法や日常生活での工夫についてアドバイスを提供します。			移行支援	ライフステージの切り替え時に次の事業所へ情報共有、支援方法の共有を行います。	
地域支援・地域連携	地域で暮らす他の子どもとつながりながら日常生活を送ることができるように支援します。保育園・幼稚園・こども園に通所が出来るよう支援時間や送迎を考慮します。			職員の質の向上	虐待防止研修・感染防止研修 自立支援協議会への参加 個別支援計画の検討を通しての支援方法の研修	
主な行事等	児童館・公園へのお出かけ					